

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒が主役！ 生徒の力を伸ばし、確かな進路を実現

1. 授業や特別活動を通じ、生徒が生き生きと学び、将来へのキャリア形成が着実に進められている。
2. 規律を遵守し、規範意識を持ち、正しさを一貫して追求している。
3. 生徒の多様な進路を保障しつつ、社会に有為な技術者を送り出している。
4. 地域に貢献し、地域に開かれている。

2 中期的目標

1 学力向上への取組み

- (1) 生徒が積極的に授業に参加し、基礎的・基本的な学力の定着ができるよう、生徒との信頼関係をベースにした授業改善に取り組む
 - ア 生徒の実態を把握し、学力伸長に向けた授業を展開する。また、少人数授業、選択科目の充実を行い「わかる授業」を実践する。
 - ・ 教員の授業力向上のため、教員相互の研究授業の活性化や外部との連携による研修の充実を図る。
 - イ 生徒による授業評価を有効に活用するとともに、生徒が主体的に授業に参加できるよう授業の工夫・改善を進める。
 - ウ 学校での読書活動を一層推進するとともに、授業等における図書館機能の活用を図る。
 - ※生徒による授業評価における授業満足度（H27：78%）を、H29年度には82%をめざす。
- (2) 「ものづくり教育」を通じて、意欲をもって学習に取り組む生徒を育成する。
 - ア 生徒が望ましい勤労観・職業観を身につけるため企業や大学等と連携し、職業教育の充実を図る。
 - イ 生徒が職業資格等を取得するよう、学校設定科目に取り入れるなど組織的な取り組みを行う。
 - ウ 英語によるコミュニケーション能力を育成するなど、国際社会に通用する技術者を育成する。
 - ※生徒向け学校教育自己診断結果における実習授業における満足度（H27：75%）を、H29年度82%をめざす。
 - ※資格取得者の増を図り、ジュニアマイスター（全工協）H29 ゴールド5人、シルバー10人を目指す。（H27 G：3、S：4）

2 子ども達の未来に向けた支援と豊かな心のはぐくみ

- (1) 人権教育に立脚した他者と連携する力の育成に努めるとともに、生徒との信頼関係をベースにした毅然とした生徒指導を行う。
 - ア 生徒の発達段階に応じた人権教育と、学年別人権教育の充実を図る。
 - イ 問題行動の防止や再履修生および退学者の減少に努める。
 - ウ 情報に関する倫理教育の充実をはかる。
- (2) 分掌・学年等の取組の中で、生徒の自己実現への支援に努める。
 - ア 支援教育の充実のため教育相談体制の機動性を高め、学習支援活動の充実をはかる。
 - イ 進路実現に向けた分掌・学年・教科の連携を深め、教育委員会等の事業を活用しながら、生徒の自己実現に向けた指導の充実を図る。
 - ウ 工学系大学進学専科の指導充実を図り、公立大学への進学を含め生徒の多様な進路希望の実現を図る。
 - エ 中途退学率の減少（H26年度末1.6%）。また、就職・進学とも全員内定を各年度の目標とする。
 - オ 卒業後の追跡調査の精査をめざすため、3年後の離職率調査を実施する。また、進学した生徒の学習状況調査を実施する。
 - ※中途退学者減少 1%
 - ※就職1次内定率の向上 H28年度80%、進学希望実現90%、3年後離職率20%以下

3 魅力ある工科高校の創造と学校運営体制の確立

- (1) 創立80周年（H29）に向け、揺るぎない教育機関としての機能を充実させる。
 - ア 記念事業の実施に向けた本格準備を進める。
 - イ 魅力ある教育活動が進められるよう、学習環境の整備を進める。
 - ウ 産業界をはじめ外部組織からの支持基盤を確立する。
 - ※諸事業の実施成功、安定した企業求人確保
- (2) 中学校への教育内容や進路実績を戦略的に広報し、志願者の安定的確保を図る。
 - 入学者選抜に係る希望調査時倍率および志願者倍率の向上（H29選抜：1.10倍）
 - ※平成30年度選抜 工学系・総合募集ともに志願者倍率 1.15倍をめざす。
- (3) 魅力ある工業教育について研究を進め、意欲ある教員の育成に努める。
 - ア 世代交代が進む中、若手・中堅教員の研修・育成を進める。
 - イ 退職教員が増える中で、中堅や若手が「ものづくり」の技術を継承する。
- (4) 生徒が生き生きと学校生活を送り、未来を支援できるよう学校組織の改善を進める。
 - ア 部活動の環境整備を図るとともに、安全対策の強化を図る。
 - イ 学校課題について将来検討委員会等で検討し、組織的に迅速な実行を進める。
 - ウ 職員の一人ひとりが学校経営に参画し、経営的視点を持つことのできる組織づくりを進めるとともに、教職員が互いの情報を共有化するため、校内イントラネットを活用した校務のICT化を進める。
- (5) 地域貢献し、地域に愛される学校づくり
 - ア 特別活動（行事、生徒会、部活動）を中心とした、地域への貢献を進める。
 - イ 企業や地域との連携を深め、学校の活性化を促進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年11・12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【生徒が主役の学校づくり】※以下の数値は肯定的意見の比率 生徒調査で「学校満足度」1年80%、3年79%「淀工生の自覚と誇り」1年72%、3年69%「文化祭等行事が盛ん」1年85%、3年81%「部活動が盛ん」1年85%、3年85%と生徒の自己肯定感が一定数確保されている。</p> <p>【学習指導】 生徒調査で「実験実習が興味深い」1年75%、3年74%「資格取得に熱心」1年52%、3年71%と工科高校の実技科目や資格取得に関心が高く今後も一層推進したい。一方で「家庭学習の実行」1年18%、3年22%と家庭学習に大きな課題がある。ただ、「授業に意欲的参加」1年66%、3年58%と昨年よりも改善している。また教員調査で「学習形態の工夫改善」78%、「思考力重視の学習指導」57%と改善に向かっていると感じている。今後組織的な授業改善や学習指導に一層努めたい。</p>	<p>■第1回（7/20） ○平成28年度学校経営計画について ・学力向上に向けた授業改善の取組、学校広報活動、創立80周年事業の取組み等 ・自学自習の習慣づけを進めることや教員の準備・研鑽が重要。</p> <p>○広報活動 ・府教育庁「工科高校魅力化PJ」と連動。学校HP・パンフレットの刷新、体験入学や学校説明会の充実。地域と連携した広報活動も進めるべき。</p> <p>○工学系の進路保障について ・英数をクラス2展開、7限目授業の実施、夏期・冬季講習会を実施。実力をつけ、公募制推薦等の突破等、1期生の結果を示してもらいたい。中学校も注視している。</p> <p>■第2回（11/2） ○学校経営計画の進捗及び進路状況、生徒指導状況報告 ・授業見学では整然と受けていた。授業規律についてスマートホンの扱い等ルール、マナーの指導</p>

府立淀川工科高等学校

<p>【生徒指導】 生徒調査で「服装などルール・マナー」1年 69%、3年 72%「携帯電話マナー」1年 46%、3年 47%と昨年度から向上した。 教員調査では「生徒指導の組織的取組」57%と昨年より下がり課題と感じている。</p> <p>【進路指導】 生徒調査で「HRで進路生き方考えられる」3年 57%「進路に備えた行事充実」3年 67%と横ばい。さらなる充実に努めたい。</p> <p>【保護者】「工科高校に進学させて良かった」1年：88%、3年 85%と高い水準で肯定されている。</p>	<p>を進められたい。また、朝のあいさつ指導も重要。・工学系含め現在の進路（進学者ほぼ倍増、就職内定 95%）は一層指導の事。</p> <p>○広報活動について 中学校体験入学、出前授業、中学校訪問活動等を報告。学校見学や相談会の増に努められたい。広報のツールは配付対象を考え作成の事。様式等は統一感が大切。 「授業改善」は次回取組みのまとめをアンケートも踏まえ報告すること。</p> <p>■第3回（2/6） ○平成 28 年度進路状況報告 就職内定 100%、大学合格約 50 人（実現率 90%）、さらなる充実に努めてほしい。 ○平成 28 年度学校経営計画評価（案）、平成 29 年度学校経営計画（案）について ○今年度の授業改善について 特に「家庭学習の充実」につき、習慣づけること、レポート指導なども効果的。また目標を持たせることが、学習意欲の向上につながる等。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力への取組み	<p>(1) 学力の定着 ア 生徒の実態を把握し、学力伸長に向けた授業を展開。 イ 授業評価を有効に活用。生徒が主体的に授業参加できるよう工夫改善を進める。 (2) ものづくり教育 ア 専門教育に付加価値高める。 イ 外部との連携</p>	<p>(1) ア・「朝学」の継続・充実で基礎学力の一層の定着を図る。 ・外部模試による生徒の学力の定点観測・分析を行い、課題の克服を進める。 ・自習室等生徒の学習環境の整備を進める。 イ・生徒の能動的授業参加をめざし、授業力向上PT（仮称）を設置・推進を図る。 ・公開研究授業の実施、教員相互の授業見学（1人2回以上）、学校外の講師による授業力向上研修を進める。先進事例も研究する。 (2) ア 職業資格取得を組織的に進め、専門教育としての付加価値を高める。 イ 大学や企業連携により、ものづくり教育への興味や関心を高める。</p>	<p>(1) ア・生徒による授業アンケートにおける授業満足度 H28:80%目標。 ・生徒の経年値学力向上 各教科シラバス等検討 ・家庭学習者の増加 (H27: 59%) イ・相互授業見学 1人2回以上 ・公開研究授業の実施。 (2) ア・学校教育自己診断結果の実習授業満足度 H28:80% (H27:77%) ・資格取得者：2割増 (H27: JM の G: 3、S: 4、旋盤 3級 11名) ・インターンシップ参加数：2割増 (H27:13名)</p>	<p>(1) ア. 朝学は継続。今後教育活動全体を見て見直す。 ・1・2年基礎力診断実施し定点観測。上位層 20%が中位に下がる。自習室整備は進まず。(△) ・授業満足度 79%・経年値は下降 (△) 自習室整備等の環境整備や外部試験活用した学力向上、家庭学習の習慣づけの指導を図る。 イ. 授業力向上に向け授業公開週間（2回）を教科で設定。授業の互見は課題。先進事例見学（3件）を進める。(○) ・公開研究授業：4回実施 (○) (2) ア. 授業満足度：75% (○) ジュニアマイスター (JM) ゴールド：3名 (H27: 3)、シルバー：8人 (H27: 4)、特別表彰 1名 (H27: 0) (1/26) 資格取得：旋盤 4割増、電気工事減 (88名) (◎) ・インターンシップは受入企業の拡大を図る。人数：65人(◎)</p>
2 子ども達の未来に向けた支援と豊かな心のはぐくみ	<p>(1) 人権教育と生徒指導 ア 発達段階に応じた人権教育の推進 イ 問題行動の防止や退学者等の減少に努める。 (2) 生徒の自己実現への支援 ア 教育相談体制の充実 イ 進路実現</p>	<p>(1) ア・人権講演会や人権 HR を実施し、合理的配慮を踏まえた「ともに学び共に生きる」共生社会を学ぶ。 イ・定期的な遅刻指導を進め、遅刻減をさらに図る。 ・きめ細かな生徒指導、学習指導により中退者減、不登校減を図る。 ・学習環境の改善を図るため、全教員による学校巡回を定期的に行う。 ・情報倫理に関する指導の充実を図る。 (2) ア 支援教育コーディネータ中心に関係教員の連携強化し、配慮を要する生徒の支援、進路指導を活性化する。 イ・就職率 100%をめざし、1次内定率の向上はかる。 ・工学系はじめ大学等進学希望者の進路実現に向け、きめ細かな進路指導を行う。 ・離職率調査を継続し、就職者の定着を進める。</p>	<p>(1) ア学校教育自己診断「命や人権の大切さ学ぶ機会多い」肯定率 50% (H27: 45%) イ ・遅刻年間 3500 未満 (H27: 4614) ・中途退学率の減少 (H27: 0.8%) ・問題行動指導の減少 (H27: 9件) (2) ア・学校教育自己診断（生徒向け）の「先生が相談に応じてくれる」の肯定率 55%以上に (H27: 53%) イ・就職内定率 100%。(99.7%) ・卒業後 3 年の就職者の離職率調査 (20%以下を確保) (H27: 19.6%) ・大学進学希望実現度 90% (H27: 90%)</p>	<p>(1) ア 生徒対象に「人権落語」でいじめの人権研修実施 ・「命や人権の大切さ学ぶ機会多い」肯定率 (54%、44%) イ 全教員の学校巡回を実施 ・遅刻数：4,453 (△) ・中退者：4名 (0.4%) (○) ・問題行動件数：16件 (△) ※生活指導と担任組織との連携強化を今後図る。 (2) ・発達障害生徒をケース会議で対応策協議。事案対応のノウハウを積上げる。 ア. 「先生が相談に応じてくれる」の肯定率 (55%) イ・就職内定率：100% (○) ・卒業後 3 年の就職者の離職率：21.7% (H27: 19.6%) ・大学進学希望実現度 85% (50/59) (○) ※遅刻指導は一定進む。進路指導は就職希望は減、進学が増える。工学系一期生結果踏まえ次年度対策講じたい。</p>

府立淀川工科高等学校

<p>3 魅力ある工科高校の創造と学校運営体制の確立</p>	<p>(1)80周年に向けた取り組み ア 本格準備 イ 環境整備 (2)中学校への戦略的広報活動 (3)工業教育の研究と教員育成 (4)生き生きとした学校生活 学校組織の改善 ア 部活動の振興 イ 学校課題の検討と組織の検討 (5)地域貢献</p>	<p>(1) ア 80周年記念事業へ校内組織整備 イ 環境整備を計画的に進行させる (2) ア 年間2回の本校教員一斉中学校訪問、体験入学、学校見学会、進路相談会、出前授業等を効果的に行い志願者増を目指す。 イ 中学校教員対象の説明会やものづくり教室などを通じ工科の魅力を伝える。 (3) ・テーマ別校内教員研修等を開催 ・ベテランと若手ペアでものづくり技術継承 (4) ア 部活動をはじめ特別活動が活発に展開できる体制の構築。活気ある部活動の推進。 イ ・将来検討委員会で学校課題を分析、方策の検討実行。 ・学年と教科担当等の連携共有のため、学級担任懇談会（仮称）を開催。 (5) ア 部活動及び生徒会による地域連携に取り組む。</p>	<p>(1) ア 整備計画立案 (2) イ ・中学校訪問（のべ200校、H27:213校）や体験入学、出前授業（6校）を実施する。 ・平成29年度入学生選抜志願者倍率：1.15倍 ・中学校教員等対象行事数（3）実施回数3回 (4) ア ・自己診断「将来の進路に向けた行事が充実」H28:75%（H27:65%） ・部活動加入率70%（H27:72%） イ ・組織運営の円滑化 ・各学期ごとに実施 (5) ・小中学校との連携を5回以上取り組む。（6回）</p>	<p>(1) ・記念会役員会を4回実施。業者選定委員会開催。企業等にも支援を広げる。全体計画概ね完了。 ア 校内外の組織等概ね立案、記念事業予算確保 イ 「多目的ドーム」、記念誌等業者、工程決定(○) (2)教職員全員が危機感を持ち取り組んできた。学校HP、リーフレットの全面改訂。相談会の実施。 イ 平成29年度選抜志願倍率：1.10倍(○) ・中学校訪問：115校（1/25）、学校見学会：332名、出前授業（6校）、中学校訪問プレゼン訪問：8校 ・平成29年度入学生選抜1月希望調査：1.03倍(○) ・中学校教員等対象行事：(△) ※次年度中学教員の見学会等機会検討する。 ※全教員の協力で選抜志願者が超えることができた。 (3)OJTで実施(○) (4)部活動、生徒会活動が活発化。全国、近畿等に出場。 ア ・自己診断「将来の進路に向けた行事が充実」H28:68%、67%（H27:65%）(○) ・部活動加入率H28:69.1%（H27:72%）(○) イ ・運営委員会が協議の場になった。 ・「教科担当者会議」11月に実施、アンケート調査も行う。(○) (5)小中学校との連携を5回以上取り組む。(5回)(○) ※本校に来て戴く機会の増は効果的</p>
------------------------------------	--	---	--	---